

## 主の洗礼

2010.1.10

(ルカ 3・15-16,21-22)

お正月も終わり、迎えた2010年の新しい営みも本格的に始まっています。クリスマス、新年にあたって神様の前で祈り求め、心に誓ったことが、この一年の私たちの営みにおいて実を結んでゆくよう、仕事始めの今日のミサであらためて、お互いに祈りあいたいと思います。新年を向かえ新たな決意をもって、この一年の営みを開始した私たちの思いに応えるように、今日の典礼は主イエスの公の活動の開始を告げる、主の洗礼の祝日を祝っています。クリスマスの夜、私たちの救い主として、私たちのもとに、私たちとともに生きるために来てくださった神の子、イエス・キリストは、今日祝うその洗礼によって父なる神から与えられた使命を果たすための活動を開始されます。

洗礼の恵みをいただいたわたしたち一人ひとりにとってもそうであるように、今日祝うイエスの洗礼は、イエスの人生にとっても決定的な新たな旅立ちの日です。いやむしろ、イエスにとっての洗礼がそのようなものであったがゆえに、イエスを信じて洗礼を受けた私たち一人ひとりにとっても自分が受けた洗礼が自分の人生の決定的な日となったと言うべきかもしれません。イエスはヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けたと言われていますが、今日祝う主の洗礼はイエスが受けられた洗礼であることによって、私たちが受けた洗礼と結ばれているのです。

ヨルダン川のほとりのユダの荒れ野に現れて、神の裁きの日がまじかに迫っていることを宣べ伝え始めた洗礼者ヨハネのもとに、パレスチナ一帯の町や村から、大勢の人々が押し寄せるように集って来たと聖書は語り始めます。マタイマルコ、ルカの三つの福音書は、「荒れ野に叫ぶ者の声がする」という旧約の預言者のことばを引用して、洗礼者ヨハネの活動がどのような意味を持つものであったかを述べていますが、洗礼者ヨハネのもとに集って来た人々の心にもこの旧約の預言者のことばが響いていたかもしれません。人々は洗礼者ヨハネの姿とそのメッセージのうちに、神が何か新しい決定的な出来事を開始されようとしておられると感じ取っていたのかもしれません。そうでなければ、家のことも仕事も捨ておいて、あれほど大勢の人々がユダの荒れ野の洗礼者のもとに押し寄せることはなかったことでしょう。人々は何か新しいことを求めていたのです。そして自分たちが求める、今の状況を決定的に変えて真に新しいことを開始することが出来るのは神以外にはないと、彼らを取り巻く状況の中で感じ取っていたはずです。

そのような人々を前にして洗礼者ヨハネが語ったのは、旧約の預言者たちの

伝統を受け継ぐ神からのメッセージです。神の裁きの前に身を置いて悔い改めること、神が始めようとしておられる救いのみわざを受け入れ、神がもたらそうとしている新しい世界に生きるためには、まずこのような神のみ前における自己変革が求められるのです。洗礼者のことばは人々の心に響きました。人々は自分たちの生き方が変わらなければ、神に呼び求めても神は応えてくださらず、神がもたらしてくださる真に新しいことは何一つこの世界には起こらないことに気づき始めていたのです。だから彼らはこぞって、ヨルダン川の水に身を沈め、洗礼者ヨハネが勧めた、悔い改めのしるしとしての洗礼を受けたのでした。

そのような人々の群れにまじって、イエスも洗礼者ヨハネの手から洗礼を受けたと今日の福音は語っています。これが今日私たちが祝う主の洗礼の出来事です。イエスは神の子であり罪も汚れもないお方であるので、本当は、悔い改めも、まして洗礼者ヨハネから洗礼を受ける必要もなかったと言う人がいます。イエスは、私たちに謙遜の模範を示すために、あのように洗礼を受けたのだと説明されます。けれども、イエスは私たちに手本を示すだけのために、このように洗礼をお受けになられたのでしょうか。

クリスマスの夜、ベツレヘムの飼い葉桶の中に寝かされていた神の子は、その姿をもって、生まれる場所を選ぶことが出来ない人の子とされたこと示しておられたのではなかったでしょうか。イエスは神としての、その愛のゆえに私たちと同じ人間となって、この世界に来てくださったお方です。人間である私たちが神に求めることを、私たちの一員として、私たちと一体となって神に願い求めるためにイエスは私たちの世界に来てくださり、そのようにして、私たちのこの世界に真に新しい神の救いをもたらしてくださるのです。このように理解するなら、ユダの荒れ野の洗礼者ヨハネのもとに群がるようにして、ヨハネのことばに耳を傾けていた人々の心のうちにあった思いは、イエスの思いでもあったはずです。そしてそれは、ここに集う私たちの思いでもあることを、主の洗礼を記念する今日のミサの中であらためて確かめ合いたいと思います。

人々が求めていたのは、そしてイエスが人々の中の一人となって求めたことは、神によってもたらされる真に新しい世界です。今の世界の中では解決不能な事柄から人間を救うのは、真に新しい世界をもたらすことの出来る神の力によることです。

時の流れの中に生きざるをえない人間に付きまとう、最も大きなしいがらみは慣性の法則かもしれません。いわゆる惰性的な生き方です。私たちは新しいものを求めながら、これまで慣れ親しんできたものを手放すことに苦痛を感じます。私たちは自分のうちにも、ともに生きる人々との関係の中にも、そして人間の英知と手で作り上げられてきたこの社会の仕組みや制度のうちにも、それら全てを突き破る、真に新しいものを求めたくなる、私たちを押しつぶすほどの慣

性の力が働いていることを感じさせられます。

イエスは私たちと同じ一人の人間として、当時のユダヤの社会を支配していた人々の生きる力を、将来に向かって人間らしく社会を形成してゆく力を阻止していた慣性の力に挑戦し、自らの死と復活をもって、私たちのためにこれを打ち破り、私たちの真に新しい人として生きる道を開いてくださったのです。

イエスが洗礼を受けて水から上がられたとき、天が開けて聖霊が鳩のような姿でイエスの頭上に留まり、御父のみ声が響いたと聖書は語っています。「これこそわたしの愛する者、私の心に適う者」。

イエスの上に留まった聖霊は、洗礼と堅信によって、私たちをも包み、イエスの上に響いた父なる神のみ声を、私たちは洗礼の時に教会を通して私たちにも向けられたと信じています。

新しい年の始まりにあたって、今日祝う主の洗礼において、神がイエスに託された神の子としての新しい生き方を受け継ぐ者たちとして、この一年の歩みをともに歩みだしたいと思います。

カトリック高円寺教会

主任司祭 吉池好高